

大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業
（イノベーション対話促進プログラム）
実施状況報告書

平成26年4月10日

学校法人聖マリアンナ医科大学

目 次

1. 当初計画の概要等	3
(1) 当初設定した事業の目的	3
(2) 実施体制	3
2. 業務の実施状況	4
(1) 事業全体の概要	4
(2) 実施したワークショップの詳細	6
① 1回目のワークショップについて	6
② 2回目のワークショップについて	11
③ 3回目のワークショップについて	16
3. 事業実施により得られた知見・課題等	21
(1) 本事業による一連の取組を通じて得られた知見・課題等	21
(2) 今後の活動への展望	21
4. その他	23

1. 当初計画の概要等

(1) 当初設定した事業の目的

聖マリアンナ医科大学の立地する川崎市北部三区（宮前、多摩、麻生）は、平成22年国勢調査によると、昼夜間人口比率が74.3%～81.9%のベッドタウンであるが、ここ20年（平成2年⇒22年）で宮前区（66.4⇒74.3）、多摩区（75.2⇒81.9）、麻生区（65.3⇒80.3）と団塊世代のリタイアと共に急速に昼夜間人口比率が上昇している。すなわち、これから真の意味で「町の熟成」が問われようとしている。

川崎市北部地域は市の施策上、新百合ヶ丘の「しんゆり・芸術のまち」を文化芸術振興拠点として、文化と「健康・福祉・医療」、「経済・地域活性化」のインテグレーションが期待されており、異業種の融合による新たなサービス・製品の創出が望まれている。新百合ヶ丘周辺では音楽、映像、農業、理工学、人文科学、医療・医学の領域での我が国のトップレベルの大学が立地しており、それらの英知が結集するなかで「ビューティフル・エイジング」をコンセプトにした新たな街づくりを検討する。

その際に「街の顔」となるのが女性であり、その女性の心身の美しさを通して街全体の魅力が醸成される、そのための新たなサービス、製品の創出を本事業で追及する。

そこで対話型ワークショップでは、ビューティフル・エイジングをコンセプトとしたサービスの提供をテーマとし、文部科学省で開発中のイノベーション対話ツール等を活用することでその解決策を見出すことを目的とする。

その基礎となる聖マリアンナ医科大学のこれまでの取り組みとして下記の事例が挙げられる。①[武蔵小杉] 聖マリアンナ医科大学東横病院女性検診外来：卵巣予備能を含むオリジナル健診、テラーメイド栄養指導、②[新百合ヶ丘] ブレスト&イメージングセンター：乳癌の最先端治療のみならず「ピンクリボン運動」による乳癌予防の啓発活動、③聖マリアンナ医科大学病院生殖医療センター：新規技術を応用した早期閉経治療と女性に特有の疾患への様々なサービスの提供、④(株)ナノエッグ：聖マリアンナ医科大学発ベンチャー企業で医療技術を化粧品に応用した製品群に加え、中高年に着目した美容液「豊麗」の研究・販売。

上記以外にも潜在シーズやニーズがあり、それらの実用化を実現することで「心身ともに豊かで美しい女性」を社会に送り出し、「専門家がバックアップする英知ある美」を広めることにより、豊かな生活環境の構築（COI STREAMビジョン2）に貢献できる提案をする。

加えて、妊娠年齢の高齢化に向けた取り組みは少子高齢化先進国としての持続性確保（COI STREAMビジョン1）にも有効である。京浜臨海部など川崎市には女性の研究者や技術者等、専門性の高い人材が集まることから、そうした人材にとって健康に不安なく活躍するためのサービスの提供に結びつけ、ビューティフル・エイジングのコンセプトをもとに女性の社会進出をバックアップする。

(2) 実施体制

本事業はプロジェクト・マネジメント・ボード（以下「PMB」と記述）と3名のファシリテーターとで運営・管理する体制とした。PMBは聖マリアンナ医科大学、川崎市、明治大学、昭和音楽大学、日本映画大学、専修大学で組織した。

ファシリテーターには本学発ベンチャー企業で化粧品の研究開発を行っている女性研究者、女性に特化した検診や食事療法の専門女性医師、音楽全般に造詣が深くシーズ・ニーズの事業化に高い関心を持つ女性の音楽大学教授を選定し、3つのテーマを設定した。それぞれ3～4回のワークショップを開催し、その結果を集約して事業化をさらに進めるうえでの課題をPMBにて検討する体制とした。

2. 業務の実施状況

(1) 事業全体の概要

「ビューティフル・エイジングをコンセプトとした新たな街づくり」に資する新しいサービスを創出するため、文部科学省が開発中のイノベーション対話ツールを駆使してワークショップを開催した。聖マリアンナ医科大学の特徴を生かし、外観の美しさ「サーフェスケア」（テーマ1）と健康美をつくる「食」（テーマ2）を設定し、さらに、近隣の芸術系大学と本学の融合により美加齢を支援する「医芸連携」（テーマ3）を加えた。参加メンバーは大学、自治体、企業から総勢38名の多様な領域の専門家を集めた。

各ワークショップでの検討内容は下記の通り。

ワークショップ	開催日	場所	テーマ1	テーマ2	テーマ3
1回目	11/1~2	昭和音楽大学、ホテルモリノ	「外観の美しさ、サーフェスケア」について発散と収束	「食による美加齢」について発散と収束	「医芸連携による美加齢」について発散と収束
2回目	11/29	本学	肉体的向上（外面的かっこよさ）、精神的向上（内面的かっこよさ）	「食と美加齢に関する価値創造ビジネス」について発散と収束	「五感（五官）+第六感を刺激するもの」について発散と収束
補足	1/20、27	渋谷ヒカリエ	「健康と美を合わせたサービス」の検討	「個別の栄養指導ができるサービス」の検討	
3回目	1/29	ホテルモリノ	「ナビゲーション・コンシェルジュ・サービス」の検討	「美ボディ健診」の検討	「演じて学ぶ&参・芸・Town」の検討
補足	2/6	昭和音楽大学			「環境・装置（街）づくり」の検討
総括会議	2/13	本学	「ナビゲーション・コンシェルジュ・サービス（総合受付）」、「最新のビューティフルエイジングプログラム」の検討	「ビューティフル・エイジング（ゴールドエンエイジ）健診サービス」、「新しい栄養指導サービス」の検討	「映画から学ぶ」、「芸術参加プロジェクト」、「記念ギフト」の検討

各ワークショップで生み出された多くのアイデアやコンセプトについては、社会ニーズを浮き彫りにするため調査研究を実施し、その次の回のワークショップにフィードバックした。

検討の結果、ビューティフル・エイジングを実現する街を[E]-CT（イイカッコ・シ・ティ）と名付け、そのために必要なナビゲーション、コンシェルジュの機能、個別のサービス（アンチエイジング、食生活指導、芸術参加等）のアイデアが得られ、今後新百合ヶ丘をモデル地域としてさらなる検討を行っていくべき、との結論に至った。

そのため、新百合ヶ丘が立地する川崎市麻生区及び多摩区、中原区、宮前区、高津区の5区に在住する40才歳以上男女1,600名へのウェブアンケート調査を実施し、性・年齢別の特性、区の特性について分析した。例えば麻生区の男性は、きっかけがあれば芸術活動への参加を望んでいることや、かっこよくなりたいとの回答が他の区に比べ高い割合であり、各種サービスに対する潜在ニーズがあることも判明した。

本事業のワークショップにはファシリテーター含め、大学、自治体、企業の多様な専門家が参加したが、イノベーション対話ツールを体験したことにより参加者自身の仕事に活かせるとの効果とともに、本事業で構築された大学、自治体、企業の人的ネットワークを利用してイノベーションにつながる新サービスを具体化していくことが可能となった。今後、ファシリテーターをさらに養成し、イノベーション対話ツールを駆使したワークショップが継続的に開催できるような体制を構築する。

現在、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が公募している「平成26年度科学技術コミュニケーション推進事業機関連携推進」では体験型・対話型の科学技術コミュニケーションを通して、社会ニーズに対する課題の解決を図る趣旨のもと、例えば新たな街づくりも企画例として提唱されており、今回のワークショップの成果をもとに応募するなどして、ワークショップを継続することで、魅力のある街づくりに資するサービスの創出をしたいと考えている。

本事業の情報発信としては、学内向けとして、聖マリアンナ医科大学での教授会（平成25年9月18日）で事業採択報告を行い、「ビューティフル・エイジングをコンセプトとした新たな街づくり」の事業コンセプトでワークショップを実施することを発信した。本学が本事業により近隣大学と新たな事業を実施していくことに学内からの協力を呼びかけた。

1回目のワークショップを昭和音楽大学とホテルモリノ新百合ヶ丘にて開催したこと、2回目のワークショップを11月29日に開催予定であることを教授会（平成25年11月20日）で報告することにより、本事業の学内への浸透を深めた。加えて、明治大学と昭和音楽大学でも両大学の学内に向けて本事業への協力を呼び掛けていただいた。

学外に対しては本事業の内容を知財事業推進センターホームページ内に新たなサイトを作成し（http://www.marianna-u.ac.jp/chizai/coi_stream/）発信した。本事業は文部科学省革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）の大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業の一環であり、COI STREAMの概要とともに我々の活動報告、ニュースなどを掲載している。訴求力を高めるため、文部科学省にご協力いただき、COI STREAMのロゴマークを使用したページ構成とした。さらに、ワークショップから出されたそれぞれのアイデアや事業化に向けた調査研究の結果を含む詳細な報告書を作成している。詳細な報告書が完成次第、川崎市、神奈川県、近隣大学や関連企業などに配付して情報発信する予定にしている。

(2) 実施したワークショップの詳細

① 1回目のワークショップについて

ア. ワークショップの概要

・ワークショップの目的、テーマ

本ワークショップのメインテーマである「ビューティフル・エイジングをコンセプトとした新たな街づくり」を推進するためのワークショップ・グループを次の3つのテーマごとに形成した。

テーマ1：「サーフェスケアによる美加齢」

テーマ2：「食による美加齢」、

テーマ3：「医芸連携による美加齢」

・ワークショップ設計に当たっての仮説・狙い

本事業での初めてのワークショップであり、まずは参加者が慶應SDMの指導のもと「イノベーション対話ツール」に慣れてもらうために、同ツールによるブレインストーミングを参加者全員で共通体験し、以後のワークショップにおける円滑な意思疎通と自由闊達な議論につなげることを意図した。この体験型ワークショップの内容を踏まえ、実際に3つのテーマについてファシリテーター主導のもと参加者が各テーマに関して“インサイト”（気づき）や“アイデア”（発想）の発散と収束を実践してもらうことを企図した。

・使用した対話の手法

1日目午後1時から3時頃〔参加者全員を対象〕

慶應SDM指導による「イノベーション対話ツール」による、ブレインストーミング（ブレスト）→親和図法→ブレスト→2軸法→マトリックス法

1日目午後3時頃以降および2日目午前中〔各ワークショップ・グループ〕

テーマ1：ブレスト→親和図法→ブレスト→2軸法→マトリックス法（強制連想）

テーマ2：ブレスト→親和図法→2軸法→2軸法（強制連想）

テーマ3：ブレスト→2軸法（2グループに分かれて、複数の軸を設定）→マトリックス法

・参加者の状況（人数・性別・年齢・職業等の分布）

	所属機関・部署等	20歳～ 39歳		40歳～ 59歳		60歳～		合計	
		男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
		a	自然科学系研究者			3	4	2	
b	人文・社会系研究者		1	2	3	2		4	4
c	技術系職員						1	0	1
d	事務系職員		1					0	1
e	リサーチ・アドミニストレーター（URA）							0	0
f	産学官連携コーディネーター							0	0
g	学生（大学院博士課程、修士課程、学部生）		1					0	1
h	上記a～g以外			1				1	0
i	不明							0	0

j	企業	研究開発部門						0	0	
k		事業企画部門						0	0	
l		経営部門				1		0	1	
m		上記 j~l 以外				2		0	2	
n		不明						0	0	
o	TL0							0	0	
p	地方公共団体（公設試験研究機関を除く）		1					0	1	
q	公設試験研究機関							0	0	
r	財団法人・第3セクター等		1	1	1			1	2	
s	そのほか（a~r のいずれにも該当しないような場合）							0	0	
合計			2	6	7	11	4	1	13	18

・ワークショップの会場

1日目：平成25年11月1日（金）

昭和音楽大学北校舎 5階スタジオ・リリエ、301号教室、204号教室（川崎市麻生区万福寺1-16-6）



2日目：平成25年11月2日（土）

ホテルモリノ新百合丘 7階絵の間（川崎市麻生区上麻生1-1-1）



・スケジュール

平成26年11月1日（金）	13:00~15:30	事業概要説明および体験型ワークショップ
	15:30~18:00	各ワークショップの実践
平成26年11月2日（土）	10:00~12:00	前日に引き続き各ワークショップの実践

・ファシリテーターについて

○テーマ1：「サーフェスケアによる美加齢」 山口葉子

経歴：静岡大学工学部合成化学科、同大学院工学研究科修士課程修了、ドイツ バイロイト大学博士課程（Ph.D 取得）、ダウコーニング(株)、横浜国立大学大学院人口環境システム学に勤務後、聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター先端医薬開発部門 DDS 研究室に所属、難病治療研究センター診断治療法開発・創薬部門准教授（現在に至る）。2006年4月株式会社ナノエッグ（資本金7,245万円）を設立。山口氏は代表取締役社長兼研究開発本部長として活躍中。

2012年株式会社ナノエッグが Japan Venture Awards 2012 にて中小企業庁長官賞を受賞。

○テーマ2：「食による美加齢」 磯貝晶子

経歴：聖マリアンナ医科大学卒業、同大学病院第一外科学研修医、外科学（消化器・一般外科）講師、現東横病院女性検診科医長。女性外科医師として乳癌、消化器外科、一般外科症例の治療に関わる。武蔵小杉駅に隣接する聖マリアンナ医科大学東横病院が総合病院から2008年にリニューアルしたことに伴い循環器・脳卒中・消化器疾患の専門性に特化した診療を開始、女性のQOL（クオリティ オブ ライフ）に貢献する「女性検診科外来」を開設した。

女性特有の産科・婦人科疾患、大腸肛門病、乳腺、甲状腺等、通常なら診療科ごとの受診が必要だが、患者の利便性とQOLに配慮した新しいタイプの検診外来を提供して幅広い年代の女性に支持を得ている。新百合ヶ丘にある聖マリアンナ医科大学プレスト&イメージングセンター（乳癌の予防と治療、病院長 福田護 乳房健康研究会理事長）では外来診療を行っている。乳房健康研究会は「ピンクリボン運動」で乳癌の啓発活動を行い大企業や外資系企業から高い支持を得ている。「心身ともに豊で美しい女性に医療で貢献する」活動を行っている。

○テーマ3：「医芸連携による美加齢」 有田栄

経歴：東京藝術大学音楽学部楽理科、同大学院音楽研究科修士課程を経て、同博士後期課程修了。博士（音楽学）。昭和音楽大学音楽学教授。「文化庁舞台芸術国際フェスティバル2004～古都に流れる現代の響き～“いにしえ”からベリオ～ルチアーノ・ベリオ作曲『セクエンツァ』全曲演奏」監修2004年、NHK-FM「名曲プロムナード」番組構成・台本1994-1996、NHK-FM「朝のバロック」番組構成・台本2002-2004、「バロックの森」番組構成、およびパーソナリティーとして毎週レギュラー出演2004-2007、「＜東京の夏＞音楽祭」企画・制作協力 第10回1994-第25回2009他。

専門は西洋音楽史のほか現代の音楽・音楽美学。西洋芸術音楽における声の伝統、および現代の声の音楽をテーマに研究。他方で執筆やTV/ラジオ音楽番組への出演、音楽史を楽しく学ぶ公開講座や講演を通じ、様々なジャンルの音楽の紹介につとめている。

・ファシリテーションの実施状況

慶應SDM指導のもと全員参加型の体験型ワークショップを実施し、その後テーマごとに分かれ各ファシリテーターがリードしてブレインストーミングを実施した。

○テーマ1：ファシリテーターである山口氏はメンバー構成を検討している段階から、積極的に慶應SDMの担当者と同面談するなど、ツールの修得とファシリテーションの実施に意欲を示し、平成25年10月8日には、(株)ナノエッグの社員と対話ツールを用いたワークショップを開催して運用効果の検証を行った。

課題としてグループメンバーの選出には多様性が有用であること、2軸を考える強制連想では対話ツールに慣れていないとアイデアに窮する場面が多くみられることなど、ワークショップを進める上でのテクニックが必要なことがあげられた。

○テーマ2：ファシリテーターである磯貝氏は昨年9月に開催された文部科学省のワークシ

ヨップに参加し、アイデアの発散・収束から2軸法、強制連想他を体験した。ただ、強制連想以降は専門性を有しアイデアの出せる人材の確保する必要があると考え、人材確保に向けて参加者の多様性を重視しながらミスインターナショナル公式栄養指導担当者、アロマセラピーの専門家、栄養学の専門家、介護医療に地域で関わる医師に参画を求めるなどメンバー選出に尽力した。

○テーマ3：医芸連携というこれまでに例があまりない多様な異分野・異業種の組み合わせのファシリテーションをするにあたり、ファシリテーターである有田氏には対話ツールの研修やワークショップの具体的なトレーニングは行わず、対話ツール研修参加者からツールの説明を受けてファシリテーションに臨んだ。1回目のワークショップでは慶應SDMが参加者としてテーマ3に加わり、ファシリテーションの支援を受けながら対話を進めた。

イ. ワークショップの検証

・設計に当たっての仮説・狙いと実際に行ったワークショップとの比較・検証

慶應SDMにファシリテーションのサポートをしていただきながら、本事業のファシリテーターが対話に加わる形での進行となった。参加者からも、本ツールが新たな発想を生み出すのに非常に有用であるとの声も聞かれ、「本対話ツールに慣れる」とのねらいにおいては、大変意義のあるワークショップとなった。

・ワークショップを通じて新たな視点、考え方、着眼点等（インサイト）が得られたか。得られたとすれば、それは何に起因しているのか。

各テーマとも敢えて対象を女性に限定せず男性を含めた幅広い議論が行われた。

○テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）

男性、女性問わず、外観が変わるためには、「変われるポイント」を与えることが重要で、そのためには若い頃のような顔立ちになるメイクポイント（男性の場合はメイクという言葉は良くないかもしれない）を教授するのが大切であり、特に男性の場合には、妻もしくはパートナーから伝え指導するのが良いのではないかという意見が得られた。

「外観の美しさ、サーフェスケア」という観点で発散と収束を試みたが、本ツールに慣れていないこともあり、目指すインサイトには到達していないと思われた。

○テーマ2（食による美加齢）

食は「自分のために摂取する食事」と、「家族や他人のために用意する食事」の2種類あり、特に食事の捉え方として、男性では前者、女性では後者の感覚があることが特徴的であるとの意見が出た。また、食事は生きていく上で必要な行動であるが、単に栄養を取り活動するための「身体の健康を得ること」を目的とした食事と、他者と共有する時間や料理の味を楽しむという「精神面の満足を得ること」を目的とした食事の2種類存在する。美として男性、女性ともに連想した「未亡人」の食生活を検討した結果、自分のための食を選択するが、自炊して健康的な食事を摂るより、外食で楽しい時間を過ごし、好きなものを食べ、健康や美に関しては食事の節制以外の面（例えば運動）等での努力をして、心身の美を保っているとの新たな視点が得られた。

○テーマ3（医芸連携による美加齢）

医芸連携による美加齢のためには、自分を肯定する、生きる実感を得るという方向の議論となった。におい、音、光など五感を用いた新しい刺激と感覚を呼び起こすレクリエーションに関するアイデアが出た。その理由としては医芸連携という未開拓な領域であり、多様な分野の専門家が集まったことに起因していると考えられた。

・ワークショップ等の運営から得られる効果・課題・改善点はどのようなものがあったか。

ワークショップの参加者を集めるにあたり、産学官（公）から多様な専門家を集めることが出来たが、その反面、個々の専門家に面談して事業説明して人員を決定していったため、ワークショップ開始までに想定より時間を要したことが課題であった。また、面談を進める中で企業には営業秘密等から本事業へ協力する意義を理解していただくことは容易で無い部分もあった。

1 回目のワークショップの初日は新百合ヶ丘駅前の昭和音楽大学校舎を借りて実施したが、同校の可動式座席を有するスタジオや教室を会場としたことで、ユニークな会場でワークショップを実施することが可能となった。また宿泊を絡めたことにより、初対面同士でもコミュニケーションが深まりワークショップ運営に有効に機能した。

・上記課題・改善点を実際にどのように次のワークショップ等にフィードバックしたか

高い専門性を有する人材は忙しい方も多し。参加者を十分に集めるためには、会場確保や開催日時について少しでも早く初動することを心がけた。また、初対面の方が少しでも早く共感できるように、次回のワークショップでは“アイスブレイクの仕掛け”を設定する事にした。

・参加者からの意見の集約

開催までは不安を持つ参加者が多かったが、開催後には有意義な取り組みであるとの意見が多かった。例えば「軸を変えるだけで、新たに見えてくるものがあるのは刺激的。仕事などにも生かしていける」、「発想から“連想”という考え方、進め方は、思考をひろげる素晴らしい考え方（進め方）で参考になった」との声が聞かれた。一方、会場スペースはもっと広いほうがよいとの意見もあった。

ウ. ワークショップのアウトプット等

・産学官連携活動につながるどのようなアイデア・コンセプト等が発掘されたか

各グループから下記のアアイデアやコンセプトが発掘された。

○テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）

- ・箸の持ち方等、所作を教えるサービス、男性化粧品の製品やサービス
- ・老人、病人に対する身だしなみに関連したサービス など

○テーマ2（食による美加齢）

- ・女子会／ママ会／美魔女会／未亡人／バツイチ用の食・サービス
- ・個食／孤食用の食・サービス
- ・カロリーや食事バランスガイド(コマ) に代わる栄養素の表示と食品・サービス など

○テーマ3（医芸連携による美加齢）

- ・におい（アロマ等）を用いる美容やレクリエーション等の商品やサービス
- ・個人向けのカルチャーのデリバリーに関する商品やサービス など

・発掘されたアイデア・コンセプト等についてどのような活動を行ったか

今回発掘されたアイデアやコンセプトに対して、実現化に向けた検討を進めるとともに、次回以降の新しいアイデア発掘のヒントとするために調査研究を実施した。

・上記の結果を次のワークショップにどのようにフィードバックしたか

新しいアイデア発掘に寄与するために、2 回目のワークショップの冒頭部分において、調査研究の内容のプレゼンテーションを実施した。

② 2回目のワークショップについて

ア. ワークショップの概要

・ワークショップの目的・テーマ

「ビューティフル・エイジングをコンセプトとした新たな街づくり」を推進するため、テーマ1：「サーフェスケアによる美加齢」、テーマ2：「食による美加齢」、テーマ3：「医芸連携による美加齢」それぞれのテーマで各ファシリテーターによるデザインのもと旺盛なアイデア出しから事業化につながるシーズやニーズを見つけ出すことを目標とした。

・ワークショップ設計に当たっての仮説・狙い

2回目のワークショップから参加する参加者にも配慮し、前回のレビューや参加者相互のより円滑なチームワーク運営を企図したアイスブレイク（マシュマロチャレンジ）の仕掛けを取り入れた。また、記録保存性やペーパーレス（将来的には遠隔地同士のイノベーション対話の実施のため）を考慮し、PCの記録によるワークショップを試みた。設計については、1回目のワークショップでの議論についてさらに掘り起こしをかけ、いくつかの手法を使って2軸法を用いてまだアイデアが出されていない空白の部分から“インサイト”（気づき）を得ることをねらいとした。

・使用した対話の手法

全体：アイスブレイク（マシュマロチャレンジ）

テーマ1：ブレスト（ネット検索）→2軸法→ブレスト（ネット検索）→2軸法

テーマ2：2軸法（強制連想）→ブレスト→2軸法（強制連想）→マトリックス法（強制連想）

テーマ3：ブレスト→マトリックス→強制連想→親和図

・参加者の状況（人数・性別・年齢・職業等の分布）

	所属機関・部署等	20歳～39歳		40歳～59歳		60歳～		合計	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
a	自然科学系研究者			3	4	1		4	4
b	人文・社会系研究者			1	2	2		3	2
c	技術系職員						1	0	1
d	事務系職員		1					0	1
e	リサーチ・アドミニストレーター(URA)							0	0
f	産学官連携コーディネーター							0	0
g	学生（大学院博士課程、修士課程、学部生）		1					0	1
h	上記 a～g 以外			1				1	0
i	不明							0	0

j	企業	研究開発部門	2	1		1		2	2	
k		事業企画部門						0	0	
l		経営部門			1			1	0	
m		上記 j~l 以外				1		0	1	
n		不明						0	0	
o	TLO							0	0	
p	地方公共団体（公設試験研究機関を除く）							0	0	
q	公設試験研究機関							0	0	
r	財団法人・第3セクター等							0	0	
s	そのほか(a~rのいずれにも該当しないような場合)							0	0	
合計			2	3	6	8	3	1	11	12

・ワークショップの会場

聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター4階セミナー室（川崎市宮前区菅生 2-16-1）



・スケジュール

平成 25 年 11 月 29 日（金）

10:00～（午前中） 前回チームのレビューとアイスブレイク（マシュマロチャレンジ）

13:00～ 18:00 各チームにおいて対話ツールおよび一部パソコン検索機能・スクリーンを用いたブレインストーミングを実施

・ファシリテーターについて

1 回目のワークショップと同じファシリテーターにより実施した。

テーマ 1：「サーフェスケアによる美加齢」

山口葉子 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター准教授

テーマ 2：「食による美加齢」

磯貝晶子 聖マリアンナ医科大学医学部外科学講師

テーマ 3：「医芸連携による美加齢」

有田 栄 昭和音楽大学音楽学部音楽学教授

・ファシリテーションの実施状況

チームごとにポストイットに記入する語彙を、パワーポイントを用いて入力しパソコンとプロジェクターで表示する対話手法を試みた。

特に、テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）では慶應SDMのアドバイスを活かして参加メンバーが1台ずつPCを使用して、GoogleやYahoo!を使って検索したキーワードをプリントアウトして壁に貼り付けていく方法を併用した。この手法はプリントアウトするタイミングで皆が一斉にプリントするとタイムラグが発生したため、パソコン入力の書記1名がポストイットに記入してスクリーンに貼付する方法を併用した。

イ. ワークショップの検証

PCを導入した方法は書記役などの人員配置は必要となるが、運営の効率化において一定の成果が得られ、今後改良していくことで有用な運営方法となる可能性が見出された。さらに、テーマ1では参加者全員で検索エンジンサイトを駆使し、事例を徹底的に抽出するという新しい手法も試み、より効果的なイノベーション対話が展開された。

・ワークショップを通じて新たな視点、考え方、着眼点等（インサイト）が得られたか。得られたとすれば、それは何に起因しているのか。

○テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）

最初に「美しく居続けるために」というテーマで思考を発散させ、2軸手法で分類した。思考を発散させる際に、PCを用いて既存のサービスの検索を行った。1回目の2軸手法では、環境（外的因子）：遺伝子（生まれ持ったもの）⇔男子：女子を軸として行った。その結果、「美しい」という定義が男性に合っていない可能性があり、男性に対する意見が少ないという意見であった。次に、男性に対する思考を発散させるために、「カッコイイ」をテーマとして男性に対する思考の発散を行った。そして、再び、（環境（外的因子）：遺伝子（生まれ持ったもの）⇔男子：女子）を軸として2軸法を行った。

2回の発散、収束で女性、男性目線での美に対する意見が出た。今回のテーマである街づくりという観点で考えた場合、男女どちらもその街には生活しているため、男女どちらも共通な環境（外的因子）：遺伝子（生まれ持ったもの）の軸上に載っている意見を抽出した。その意見に対して、お金で得られる：お金で得られない⇔精神的向上（内面的かっこよさ）：肉体的向上（外面的かっこよさ）という2軸手法で分類した。その結果、お金をかけて肉体的向上（外面的かっこよさ）、お金をかけずに精神的向上（内面的かっこよさ）への意見は集まっているが、精神的だけお金をかける領域の意見が少なく、お金はほどほどにかけて、肉体的向上（外面的かっこよさ）、精神的向上（内面的かっこよさ）の両方を得られる意見がないことが明らかになった。しかし、その領域のサービスが必要であるか、またはかっこいいと思っていないということが考えられるため、それらの領域にどのようなサービスがあるか検討した。肉体的、精神的両方に当てはまるサービスは、仕草、礼儀、マナー等である。しかし、仕草、礼儀、マナー等は各々生活習慣が異なるため、基準が曖昧である可能性があり、サービスとして確立していないことが考えられる。そのため、仕草、礼儀、マナーに対して基準を提供し、教えるサービスが考えられるのではとの新たな視点が得られた。また、外観（皮膚科、整形外科）と仕草、礼儀、マナーの両方を教えるサービスはないと考えられるため、肉体的向上（外面的かっこよさ）、精神的向上（内面的かっこよさ）の両方を楽に得られることができるサービスの需要はあるのではないかと結論になった。

○テーマ2（食による美加齢）

美は「男性、女性」、「心と体」、「生き方」など、それぞれに価値観が異なるものであるが、「健康であること」は共通する価値である。そこで食は重要な要素であり、物理的な要素と精神的な要素の2面における「美＝健康」をコントロールする上で重要な要素である。

本テーマからイノベーティブな事業を創出する上では、「美のピラミッド」における「身体と精神の健康」と、一定の評価軸を有しない「美」をつなぐ部分は何かを導き出し、そこに

遡及する事業の創出が重要ではないかとの新たな考えが得られた。

○テーマ3（医芸連携による美加齢）

「ビューティフル・エイジング」を問う前提となる「美」とは何か。そもそも「美」の概念は普遍的なものではなく、また不変のものでもない。

「美」は、歴史の中で、あるいは個々の文化の中で「作られる」ものであり、文化や伝統そのものである。従って、既存の文化や価値観の中からは決して「新しい美」は生まれて来ない。「新しい美」は、異なる価値観の葛藤や軋轢の中からこそ生まれるのであり、そうした美の基準を変革することこそが芸術の働きである。

日本の伝統文化の中には、世阿弥の「花」の概念のように、年老いても枯れることのない花、老いてこそその花、という概念がある。日本には本来、こうした独特な美感を持つ高度な芸術文化があり、それを活かすことが可能なのではないか。

好きな芸事の時だけは体の不自由も忘れてしゃんとする老人も多いという例に鑑みると、芸事は人に生きる目的を与える。「生きる目的としての芸事」という観点から、芸術が果たせる役割があるのではないか。

芸術の役割を拡大して、現代の都市生活の中で鈍らされていく人間の五感（五官）の力を呼び覚まし、あらゆる感覚に立体的に訴えるような生活環境作りを考えていくことも可能なのではないかとの新たな視点が本対話を通じて生まれた。

・ワークショップ等の運営から得られる効果・課題・改善点はどのようなものがあったか。

2回目のワークショップを終了したところで、これまでの対話内容を検討した結果、1回目では大きく発散、2回目では小さく発散したとの結論に至ったが、ファシリテーターによる報告から3つのテーマに共通するアイデアは見えてきた。ただ、ディスカッションが拡散しすぎている、さらに街づくりの視点が欠けていることが課題として得られた。

・上記課題・改善点を実際にどのように次のワークショップ等にフィードバックしたか

基本コンセプトである“ビューティフル・エイジングによる新たな街づくり”から、ファシリテーターの専門性・関心点に向かう傾向が見られたことから、運営側からまとめのイメージを示したうえで、参加者に「提案シート」の提出を依頼した。提案シートをもとに街づくりの視点でのイメージ案を検討し、次回のワークショップでその検討結果を報告した。

・参加者からの意見の集約

本ツールに慣れてきたこともあり、発散に関してはスムーズに出来るようになったが、収束には苦労している様子であった。また、十分な対話をするには時間が足りないとの声も聞かれた。さらに、時間的には厳しいが事業化にむけたプロトタイプのプロトタイプ案まで作業を進めたとの意見もあった。

ウ．ワークショップのアウトプット等

・産学官連携活動につながるどのようなアイデア・コンセプト等が発掘されたか

○テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）

・肉体的向上（外面的かっこよさ）、精神的向上（内面的かっこよさ）の両方を満たす仕草、礼儀、マナーのサービス

○テーマ2（食による美加齢）

・「個別食事指導」を達成する、スマホアプリサービス

・カロリーや食事バランスガイド（コマの図）に代わる栄養素の表示と食品やサービス

○テーマ3（医芸連携による美加齢）

- ・本物（リアル）の感覚にどのくらいの人が出会えているのか
- ・老人、若者、子供を巻き込んだ地域コミュニティで成功事例があるのか
- ・聴覚障害者向けの音楽ビジネス
- ・現在ある医芸連携の事例
- ・認知症施設の催し物での成功事例
- ・新しい病院に関する各種の事例
- ・保育園と老人ホーム（幼老ホーム）で交流する可能性
- ・障害物（坂など）があり、クリアするとご褒美が貰える病院または老人ホーム

・発掘されたアイデア・コンセプト等についてどのような活動を行ったか

“ビューティフル・エイジングによる新たな街づくり”のコンセプトのもと、①「五感を刺激する環境装置」「Navigation(全体)」、②「Navigation—これからの“今”“どんな自分を演じ再生したいか?”」、③「名演技・シーンから美を学ぶ」、④「孤（個）食から話（輪・和）食へ」、⑤「参・芸・Town」に分類し、それぞれの事例について調査研究を実施した。

- ・みみのオアシス（東京都杉並区）
- ・香り彩るまちづくり推進機構（北海道北見市）
- ・ライフスタイル・コンシェルジュ（仙台市青葉区）
- ・おおひらコンシェルジュ制度（栃木県大平町）
- ・スマイル松山プロジェクト（愛媛県松山市）
- ・タニタの健康コンシェルジュサービス「Animato アニマート」（東京都千代田区）
- ・撮影女子会（東京都西麻布）
- ・街のお助け隊コンセルジュ（東京都品川区）
- ・コミュニティカフェ「ジモット」/みんなの500円バイキング食堂「ぼる」（静岡県三島市）
- ・シルク・ドゥ・ワライユ（亀有中央商店街）
- ・シニア演劇 web「楽塾」（東京都新宿区）

・上記の結果を次のワークショップにどのようにフィードバックしたか

3回目のワークショップの冒頭部分において、調査研究の内容のプレゼンテーションを実施した。

③ 3回目のワークショップについて

・ワークショップの目的・テーマ

ここまでのワークショップにおいて、ディスカッションが広がりすぎ、基本コンセプトである「ビューティフル・エイジングによる新たな街づくり」から、ファシリテーターの専門性・関心点に向く傾向が見られたことから、[E]-CTのコンセプト：イイカッコ・シ・ティを提示して参加者に「提案シート」を配付し、これまでのワークショップを経験して事業化したいアイデアの記入・提出を依頼した。提出された「提案シート」を①「五感を刺激する環境装置」「Navigation(全体)」、②「Navigation—これからの“今” “どんな自分を演じ再生したいか?”」、③「名演技・シーンから美を学ぶ」、④「孤(個)食から話(輪・和)食へ」、⑤「参・芸・Townのサービス例」に分類した。より具体的で、事業化に近い或いはユニークと思われる提案については、提案者自身に説明を求めまた全体で考察を加えた。また参加者中当該分野の専門家による評価・検討を述べてもらい、本ワークショップでは事業化への視点を明らかにすることとした。

・ワークショップ設計に当たっての仮説・狙い

「ビューティフル・エイジングによる新たな街づくり」の構想をもとに、各テーマで下記のテーマに絞って、ワークショップを実施し、全体像を浮かび上がらせると共に事業化へのより具体的な視点を顕在化させることを狙いとした。

テーマ1：ナビゲーション・コンシェルジュ・サービス [E(生き方)]を[E(楽しみ)]に(環境装置要素含む)

テーマ2：ビューティ・健康 美ボディ健診

テーマ3：演じて学ぶ&参・芸・Town 映画のメーキャップの歴史的変遷から、21世紀の新しい美を探求し、化粧文化を開発する、および音楽文化の伝承

・使用した対話の手法

一般的なブレインストーミング(テーマ間の一部メンバーの交流を試みた)

・参加者の状況(人数・性別・年齢・職業等の分布)

	所属機関・部署等	20歳～39歳		40歳～59歳		60歳～		合計	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
A	自然科学系研究者	1		4	4	3		8	4
B	人文・社会系研究者		1		1	2		2	2
C	技術系職員						1	0	1
D	事務系職員		1					0	1
E	大学等 リサーチ・アドミニ ストレーター(URA)							0	0
F	産学官連携コーディネーター							0	0
G	学生(大学院博士課程、修士課程学部生)		1					0	1
H	上記a～g以外			1				1	0
I	不明							0	0

J		研究開発部門	1	1					1	1
K		事業企画部門							0	0
L	企業	経営部門				1			0	1
M		上記 j~l 以外				2			0	2
N		不明							0	0
O	TL0								0	0
P	地方公共団体（公設試験研究機関を除く）			1					0	1
Q	公設試験研究機関								0	0
R	財団法人・第3セクター等			1	1				1	1
S	そのほか（a~r のいずれにも該当しないような場合）				1				1	0
合計			2	5	8	7	5	1	15	13

・ワークショップの会場

ホテルモリノ新百合丘 7階絵の間（川崎市麻生区上麻生 1-1-1）



・スケジュール

平成 26 年 1 月 29 日（金）

10:00～（午前中） 前回までのレビュー、PMB からの事業総括に向けての提案と市場調査報告、各参加者からの提案シートについて考察

13:00～18:00 各チームにおける事業化への検討および総まとめ発表

・ファシリテーターについて

テーマ 1：「サーフェスケアによる美加齢」

山口葉子 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター准教授

テーマ 2：「食による美加齢」

磯貝晶子 聖マリアンナ医科大学医学部外科学講師

テーマ 3：「医芸連携による美加齢」

有田 栄 昭和音楽大学音楽学教授

・ファシリテーションの実施状況

午前中は PBM から参加メンバーに依頼した「提案シート」を事業化の目的別テーマに分類したものをスクリーンに投影して情報共有した。参加者全員及び参加者の中から当該テーマに精通した専門家を指名し意見や考察を表明してもらい、提案シートから考えられる事業化

のシーズを参加者全員で検討した。午後は午前中の検討結果からチームメンバーを提案シートの内容に沿ってメンバー交換してワークショップを進めた。

イ. ワークショップの検証

・設計に当たっての仮説・狙いと実際に行ったワークショップとの比較・検証

対話するテーマを絞り込み、3テーマでのワークショップにより、新サービスのアイデアとビューティフル・エイジングによる新たな街づくりの全体像がねらいどおり具体化されてきた。

・ワークショップを通じて新たな視点、考え方、着眼点等（インサイト）が得られたか。得られたとすれば、それは何に起因しているのか。

○テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）

「カッコイイ生き方をカッコよく楽しく」するために、どのような手段・方法を検証すればいいのか、環境・装置としての環境的仕掛けも考慮し、麻生区（新百合ヶ丘）をモデルケースにしてディスカッションを進めたところ、『区民が実年齢よりも10歳若く見える街』とのスローガンを打ち出し、アンチエイジングの診断、治療等サービスのコンテンツ及び提供方法の具体案を構築するに至った。

○テーマ2（食による美加齢）

「食」のテーマから「美ボディ作り」のテーマへ発展し、フィジカルチェックを行うための機器の開発提案も行われた。例えば、外観の美しさの評価軸の1つとなるであろう「皮下脂肪測定器」の開発は、「食」による美加齢を客観的に評価するためのツールとしての有用性、また、テーマ1のテーマとの融合の可能性が広がることについて示唆された。

最終的に、何かしたいがきっかけが無いモヤモヤ層に対して美加齢を達成するための「食」の事業について、「食事栄養指導（アプリを含む）」「(男性の)料理教室」「美加齢を提供し、男性が入りやすい定食屋やレストラン（例：「緑提灯」*地場産品応援の店）等のサービスに対して、聖マリアンナ医科大学がそれぞれと連携体制を構築し、モヤモヤ層が自ら手にとるマリアンナメディカルブランドを強みとするトータルサービスを提供するアイデアが生み出された。

*「緑提灯」とは食の安全、環境保全、地産地消を推進する目的でその店で提供される料理の原材料に占める国産品の割合が5割を超える証明。近年、店先に掲げるところが多く見受けられる。

○テーマ3（医芸連携による美加齢）

「演じて学ぶ&参・芸・town」（芸術に参加しながら学びを得る街、川崎市が提唱する音楽の街かわさきの実践）を目指すために、どのようなサービスを提供すべきか議論を行い、その結果、名作映画、名優、名演技から「メイキャップによる粧い」、「声の装い」、「身体所作と装い」、「美しく魅力的になるための身体づくり」についての新たな視点が見出された。

新たな視点やアイデアが生み出されたのは、対話するテーマを絞り込んだことに起因したと考えられる。

・ワークショップ等の運営から得られる効果・課題・改善点はどのようなものがあったか。

参加者による事業化提案を全員で共有した際には、提案に対して専門家がその場で事例を交えた考察を語り、事業化に向けた参加者の意識が高まることとなった。専門家が一堂に会したことで議論が進み、「気づき」が事業化につながることを経験することとなった。異分野・異業種によるワークショップを通じてこれまで交流のなかった大学・企業・自治体の機関と新しい連携ができた。今後の大学運営にも貢献するネットワークを築くこととなった。

3回目のワークショップに先立ち、議論の中心を、「ビューティフル・エイジング」をコンセプトとした新たな街づくりを新百合ヶ丘で展開することについて、[E]-CT（イイカッコ・シ・ティ）という概念を生み出し、ファシリテーターと参加者にフィードバックした。これはファシリテーターが2回のファシリテートを行うなかで経験を蓄積しつつ、事業化へ導出・発展する対話の技能とアイデアの収束を補うものとしてPMBが提示した。各グループの参加者からアイデアを具体的に新百合ヶ丘で事業展開することについて提案シートを提出してもらい、3回目のワークショップは参加者からの提案シートに基づいて話し合われた。この回から参加するメンバーがあったが、事前にPMBメンバーと面談を行っていたことや参加者の専門性に新たな事業の可能性を期待することから、他参加者とスムーズに議論を開始することとなった。2回目のワークショップで用いたPCを使用した記録方法が参加者にも無理なく理解され、参加者同士が顔を見ながらコミュニケーションをとりつつ議論することができたが、事業を具体化する話し合いには時間が足らず課題として残った。

・上記課題・改善点を実際にどのように次のワークショップ等にフィードバックしたか

ナビゲーション・コンシェルジュ・サービスの全体像は見えてきたが、個々のサービスについてさらに具体化するために、運営事務局でテーマの絞り込みを行い、「最新のビューティフルエイジングプログラム」、「ビューティフル・エイジング（ゴールデンエイジ）健診サービス」、「新しい栄養指導サービス」、「映画から学ぶ」、「芸術参加プロジェクト」、「記念ギフト」に絞り込んだ。

・参加者からの意見の集約

多岐に渡る分野の専門家と有意義なディスカッションが出来て、とても勉強になり、また視野が広がったとの意見が多く聞かれた。一方、煮詰まってきた感を持った参加者や事業化について教員は経験が少なく、その道の専門家を交えて検討しないと難しいとの声も聞かれた。

ウ. ワークショップのアウトプット等

・産学官連携活動につながるどのようなアイデア・コンセプト等が発掘されたか

○テーマ1（サーフェスケアによる美加齢）

ビューティフルエイジングプログラムを受けた方が自身の経験を踏まえてナビゲーター（コンシェルジュ）となり、さらに他の未経験者の教育活動を実施し、若返った人たちがすべてコンシェルジュになれるように教育体制を構築する。上記のような皮膚再生治療や医学的検査のみならず、区民がなりたい要望に応じ、筋トレやストレッチ、ヨガなどのトレーナー（専門家）を配置する。初期においては、トレーナーは専門家（たとえばスポーツ医学の先生方や整形外科医など）により実施するが、修了証明書などを発行する免許制にすることで区民自身がトレーナーと同様な専門家になれる制度（いわゆる市民参加型で、しかも本制度は年齢を問わずなれる制度とする）のアイデアが発掘された。

○テーマ2（食による美加齢）

下記のアイデアやコンセプトが発掘された。

- ・専門家による栄養指導（ワンコイン等）
- ・情報収集（ポイント引き換えアンケート（スマホ））と、商品フィードバックならびに、それに基づく栄養指導スマホアプリ。
- ・行政主催の町内イベントでの食と美加齢啓発。
- ・料理教室などのイベント。
- ・フィジカルチェック（体脂肪、姿勢、しみ、体組成）

- ・男性が入りやすい健康志向かつ美味しいレストラン（例：緑提灯）

○テーマ3（医芸連携による美加齢）

- ・映画の中から学ぶ（メイクアップ、声・話し方、ファッション・所作）

- ・「参・芸・town」（童謡・童話を通じた街作り、芸術参加プロジェクト）

- ・**発掘されたアイデア・コンセプト等についてどのような活動を行ったか**

本事業で生み出されたアイデアに対する社会ニーズを浮き彫りにするため、コンシェルジュサービスに関するウェブアンケート調査研究を実施した。主なアンケート項目を下記する。

- 1) 自分のために使う金額
- 2) 美容や外見・体形維持のためにしていること
- 3) 健康チェック・健康管理のためにしていること
- 4) 食事について
- 5) 芸術鑑賞について
- 6) 芸術参加について
- 7) 現在利用しているサービスの評価
- 8) 新規サービスの受容性について

- ・**上記の結果を次のワークショップにどのようにフィードバックしたか**

調査研究の結果は次回の総括会議には間に合わなかったため、報告書に記載することにした。

3. 事業実施により得られた知見・課題等

(1) 本事業による一連の取組を通じて得られた知見・課題等

・各機関において産学官連携活動にイノベーション創出に向けた対話型ワークショップ形式を加えることにより得られた成果・効果はどのようなものか。それは何に起因しているのか。

これまで本学では病院を起点とした地域との連携は行ってきたが、大学教員を主とした近隣の大学や機関との連携はライフサイエンス系を除くと積極的な展開は行われてこなかった。本事業を通じて理工学系、芸術系、人文科学系の大学との新たな連携や企業および行政との連携をより深めることができた。また、学内の附属病院を含め多岐に渡る部署の教職員の参加により、産学官連携活動に対する理解も深まったと考えられる。ファシリテーターの3名の大学教員も貴重な体験が出来たことにより、今後の活動に広がりをもたらされた。さらに、ワークショップの運営に関して、最初は不慣れであった事務担当者も最終的には円滑な運営を実行できる能力を得るに至った。

・対話型ワークショップの実施に当たっての問題点・課題等

本事業で用いたイノベーション対話ツールはイノベーション創出につなげるためのインサイトを見出す方法として非常に優れていると思われる。特に、発散と収束の思考プロセスをデザインすることにより、参加者が新しいインサイトを得ると同時に、思考の幅を広げたり異なる角度からの考えをひねり出したりするのにも適している。ただ、ブレインストーミング、親和図、2x2(two by two)などの手法を理解するとともに、目的に応じたデザインをするには、ファシリテーターに相当な知識と経験が求められる。強制連想などで新たな発想を生み出すのは苦しいところであるが、トライアンドエラーを繰り返し行い、目的に応じたワークショップデザインを組みつつ、参加者が訓練されてくるとより効果的な対話ツールになるものと思われた。

(2) 今後の活動への展望

本ワークショップを通じて、ビーティフル・エイジングをコンセプトとした新たな街づくりプロジェクトは以下のように集約された。

①[E]-CT (イイカッコ・シ・ティ) を創出する街の方程式

$$\cdot [E]-CT \cong \Sigma([E]-OJ + [E]-OB),$$

$$\cdot [E]-OJ = OJ_{Beauty} * OJ_{Healthy} * OJ_{Enjoyment},$$

$$\cdot [E]-OB = OB_{Beauty} * OB_{Healthy} * OB_{Enjoyment},$$

$$\cdot OJ_{Beauty} \propto e^{-\frac{1}{\alpha}(Age-\beta)}, \text{ 但し年齢}\beta \text{を基準1とする。本取組より達成.}$$

・ $OJ_{Healthy}$ は、年齢に無関係の項にすべくヘルスチェックと改善とを行う本取組により達成

・ $OJ_{Enjoyment}$ は、人生経験と楽しみに掛ける余裕力で年齢とともに向上させる環境作りにより

達成

②方程式に込められた意図

カッコイイ町・街(City)は、カッコイイおじさん・おじいさん、カッコイイおばさん・おばあさんの総和で構成される。街の活性化には若者に注目されがちではあるが、実は大人が貢献

している。学校に通う若者は平日は学校、土日もクラブ活動となにより経済的なことで単独で街の活性化に貢献する度合いは少ない。おばさま方（おばさん、おばあさん）は、現在も昼間・夕方に家事のため、平日・土日もかかわらず街に出てくる。一方、おじさん、おじいさんは、よっぽどのことがないかぎり、街にでてこない。仕事以外の楽しみが無ければ、家族と楽しむきっかけもない。カッコイイ女性、カッコイイ男性が増え、外に出て楽しみたくなるような支援や環境作りが、重要となる。年齢にかかわらずむしろ余裕が出てくる年代になればなるほどカッコよさを増加させるのが重要で、それが街に出て活動的に生活を楽しむことにつながる。実はカッコよさは見かけだけでない。表面的な美しさ、内面的な美しさ、健康さ、楽しむ力（充実力）これらの相乗効果が、個人の美しさ、街の美しさにつながる。通常、年齢が増加すると、見かけの衰え（肌の衰え・たるみ・しみ・乾燥、体型のたるみ、体重の増加・減少）、健康不安、興味の減少があるが、これを改善し自信を持って生きていく力をうみだす。とくに、本取り組みにより、エイジング（老化）がこれらの増加要因ではなく、むしろ年齢を重ねることによる人間の厚みや余裕から、素敵で美しく、自信を持ち、楽しむことのできるカッコイイ人を作る。

[E]-CT（イイカッコ・シ・ティ）としてOJ:オジサン・オジイサン、OB:オバサン・オバアサンの集合体による波及効果で町を活性化したい。街の美の方程式としてヒトが主役、街の価値と美を創る。

本ワークショップを通じて、美しくなりたい人が“これからの今”を演じていく街、あるいは、自分に合った“[E]（カッコイイ）熟齡 達老”が見つかる街を作ることが方向性として示された。これからの街の主役はヒトであり、ヒト同志が関わりを持てる工夫が必要である。街にいてみよう、街で何かをやってみようという気にさせる街づくりが望まれる。

③今後の事業化について

事業化については今後下記を検討することにした。

ア) ナビゲーション・コンシェルジュ・サービスの提供、イ) アンチエイジングの診断・治療サービスの提供、ウ) 食事の写真、記録シートのやりとりによる簡便な食生活チェック、食事指導サービスの提供、エ) 新しい健診サービスの提供、オ) 医芸連携ギフトサービス（近隣のデパートと連携し金婚式など「人生の節目」の記録とエイジングチェックをプレゼントするギフトパッケージ）、カ) 既存の芸術系大学の社会人コースをベースに、より敷居を下げ気軽に芸術参加を行えるコースの設定など。

さらに、川崎市麻生区、多摩区、宮前区、高津区、中原区在住 40 才歳以上男女 1,600 名へのビューティフル・エイジングのサービスに関するウェブアンケート調査により、性・年齢別の特性及び各区の特性が浮き彫りとなった。麻生区民の特徴としては、例えば男性では、きっかけがあれば芸術活動への参加やかっこよくなりたいとの回答が他の区に比べ高い割合であり、各種サービスに対する潜在ニーズがあることが判明した。

本学は産学官連携によるイノベーション創出を積極的に推進する意向で、今後ファシリテーター経験者をさらに養成し対話ツールを使って、必要な場合に対話型ワークショップが容易に開催できるような体制を構築する。

その意味で今回の経験は大変貴重であり、上記のサービス提供やコース設定についてより具体化を目指す上で我々の行ったワークショップを通してファシリテーターが経験値をあげて育ってきていること、このファシリテーターが今後街に出ていき住民と接する事で、新たな街づくりに向けてイノベーションに直接結び付くインサイトを得ることができる。

それをもとに前述の JST や経済産業省の街づくりに対する公的助成金の獲得も視野に入れつつ、対話型ワークショップを続行することで、魅力のある街づくりに結びつくと考えている。

4. その他

※文部科学省「イノベーション対話ツール」への要望等

今回使用したイノベーション対話ツールは対話が進むにつれてアイデアを出すことに窮する傾向がみられ、1回目のワークショップから男性化粧品に傾いたインサイトが示されるなど目標（街づくり）から離れてファシリテーターの専門性に近づく傾向がみられた。逆にテーマ3（医芸連携による美加齢）では芸術、数学科学とマーケティングの専門家を人文社会科学系の教員が橋渡しの役割を果たし、“インサイト”（気づき）を得るにはワークショップのメンバー構成が重要となることが鮮明であった。とはいえ、一定の期間に連携を拡大して多様性と専門性を確保するのは容易ではない。また出されたアイデアを記録して活用する仕組みは、議事録の作成などの経験から一層の工夫が必要と感じている。

本学はパワーポイントを活用し、書記役を配置して情報記録を行った。記録性と情報共有には非常に有効であったが、ICTを活用した手段を講じてもらいたい。例えば参加者の発言が活かされるよう、電子カルテの入力で採用されている音声ソフトを利用した手段も検討したが、ワークショップに対応した音声認識ソフトとしての機能は十分とは言えなかった。

今回は導入できなかったがパソコンとホワイトボードの役割を持った「スマートボード」などを用いたワークショップへの対応や、遠隔地に居ながらウェブ上でオープンまたはクローズなワークショップができる仕組みを取り入れるなど新たなインサイトを導き出す斬新なツールに発展することを期待する。

以上